

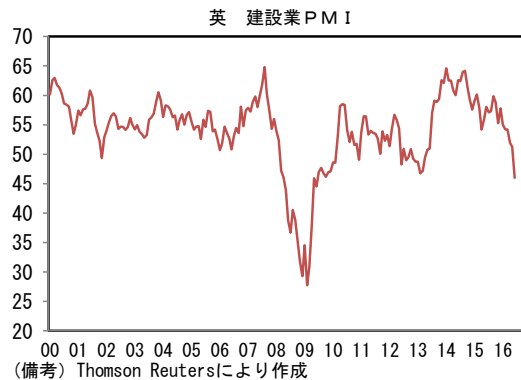
そろそろデータにでてくるBREXIT

2016年7月5日(火)

第一生命経済研究所 経済調査部
主任エコノミスト 藤代 宏一
TEL 03-5221-4523

【海外経済指標他】

- ・ 6月英建設業PMIは46.0と市場予想(50.7)を大幅に下回るネガティブサプライズ。新規受注が44.9と2009年4月以来の低水準に落ち込んだほか、広範な項目で悪化が確認され、BREXITの影響が色濃く出た形。なお、発表元のマークイットによると調査回答は80%以上が24日以前に回収されたとのこと。本日発表のサービス業PMIもネガティブサプライズに注意したい。



【海外株式市場・外国為替相場・債券市場】

- ・ 前日の米国株は休場。欧州株はイタリア銀行セクターにおける不良債権問題が重石となり下落。
- ・ 前日のG10通貨はJPYが最弱でそれにUSDが続いた反面、NZD、NOK、AUDなど資源国通貨の強さが目立った。USD/JPYは102半ばで一進一退。
- ・ 米債市場は休場。欧州債は小動き。英10年金利(0.833%、▲3.0bp)、ドイツ10年金利(▲0.141%、▲1.5bp)は低下基調が続いた一方、イタリア(1.247%、+1.7bp)は銀行セクターが不安視されたこともあって小幅に金利上昇、スペイン(1.151%、+0.1bp)は横ばい、ポルトガル(2.984%、▲3.1bp)は金利低下。3ヶ国加重平均の対独スプレッドはややワイドニング。

【国内株式市場・アジアオセアニア経済指標・注目点】

- ・ 日本株は欧州株安に追随して安寄り後、もみ合い。
- ・ 4日は米国が休日だったこともあり金融市場は穏やかな一日となったが、本日発表予定の各国サービス業PMIの結果を受けてマーケットがリスクオフに傾斜する可能性には注意が必要だろう。速報性に優れているPMIは、BREXITの影響が最初に表面化するであろう経済指標なので、市場の注目はいつも以上に高いはずだ。調査票の大部分は国民投票の結果判明前に回収されたものとみられるが、4日に発表された建設業PMIの弱さに鑑みると、ネガティブサプライズとなっても不思議ではない。英国のサービス業PMIは当然のことながら、欧州のPMIが弱い内容となれば、戻し基調にあった欧州株は再び下落のリスクに晒され、それが米国株や日本株に影響を与える可能性がある。英国株がBREXIT前の水準を回復し、米国株も下落の大半を取り戻したことを受け、市場参加者がBREXITの悪影響を過小評価しているとの指摘も目立つなか、24日以降のリバウンドを帳消しにする動きとなってもおかしくない。